

【B08】 10:30～12:00 市大文学研究科の最新研究紹介

上野雅由樹（大阪市立大学大学院文学研究科講師、東洋史学）

「宗教的寛容と近代－多宗教帝国オスマンとアルメニア人キリスト教徒－」

バルカン半島から西アジア、北アフリカ地域を勢力圏におさめ、その領内に多様な文化的背景を有する人々を内包したオスマン帝国。近世においてはムスリムとそれ以外の宗教宗派の人々との不平等と、ムスリム以外に対する「宗教的寛容」を原則としたこの国も、19世紀には平等原則に基づいた国民国家へと転換していくことになる。では、その過程において近世以来の「宗教的寛容」は、近代国家オスマンにどのように受け継がれていったのだろうか。本報告では、19世紀中葉以降に用いられるようになった「宗教的特権」という鍵概念と、キリスト教徒アルメニア人に注目することで、上記の問いに答えることを目指す。

長谷川健一（大阪市立大学大学院文学研究科講師、ドイツ語・ドイツ文学）

「グリム童話の謎を探る

－第69話『ヨリンデとヨリンゲル』とユング＝シュティリングの信仰－

グリム童話の第69話『ヨリンデとヨリンゲル』は、ヨリンゲルという若者が、魔女によって小鳥に変えられた娘ヨリンデを不思議な花の力で救い出すという魔法物語である。この話が、実は同時代の作家ユング＝シュティリングの自伝からほぼそのままの形で抜粋されていたことはあまり知られていない。グリム兄弟はこれが民間伝承の話と信じていた節があるが、実際はユングによる創作であり、ある意図を持って自伝に挿入したと考えられる。そしてその意図は、ユングの信仰と密接かつ複雑な関係にあったと推察される。本報告では、こうした点を考慮に入れつつ、改めて『ヨリンデとヨリンゲル』の成立とその背景、さらには本来のコンテクストにおける役割について考えたい。

木村義成（大阪市立大学大学院文学研究科准教授、地理学）

「地理学の新しい可能性－位置情報の可視化と空間分析－」

現在、公共機関や民間から多種多様な位置情報や地理情報が収集され公開されている。これらの位置や地理に関わる情報は、所謂、文系・理系という学問の垣根を越えて可視化されて分析されている。本報告では、報告者が過去に分析した位置情報や地理情報を提示し、皆さんに「位置に関わる情報」の可能性についてイメージを膨らましてもらいたい。また、同時に「位置に関わる情報」の法的・倫理的な問題についても提起してみたい。